

グローバルセミナー 「災害を考える」対談イベントシリーズ

第二回：文化は災害をどうとらえるべきか：芸術と大衆メディアの傾向と役割

12月27日（水）12:15~13:30（最大延長）

オンライン（Zoom）開催

地震や津波などに加え、気候温暖化の影響による異常気象、パンデミックなど、
災害が加速度的に増えていく現代をどうやって生き抜くか？

iCoToBa Nexusプロジェクトでは、行政面と文化面を考える対談イベントシリーズで、
県大の教員たちが**学際的な解決策を提案**します。

対談イベントをベースに制作される**ドキュメンタリービデオ**によって、
「愛知から考えたグローバル対策」として海外にも発信される予定です。

iCoToBa Nexusプロジェクトの**学生メディア制作チーム**は、イベントの企画と司会を担当し、
撮影した映像をベースに **ドキュメンタリービデオ**を制作します。

県大の教員と学生が協力して世界へ発信する活動の企画がここからスタートします。

第二回の対談イベントは**文化・芸術における「災害」の捉え方**に焦点をあてます。

歴史と現代社会の例を取り上げながら、**災害がどのように表象され、
その感情が人の表現力で新たな創造と行動様式を生み出せるか**、幅広く議論します。

登壇者：梶原 克教（愛知県立大学外国語学部英米学科教授）
宮崎真素美（愛知県立大学日本文化学部国語国文学科教授）
奥田 隆史（愛知県立大学情報科学部情報科学科教授）

セミナーの視聴方法

県大のOffice365 Teamsで「コードでチームに参加する」に チームコード
「4jw5fa8」を入力し、「Global / iCoToBa」のチームに参加してください。
前日までに、セミナーを視聴するためのZOOMのリンクをお知らせします。